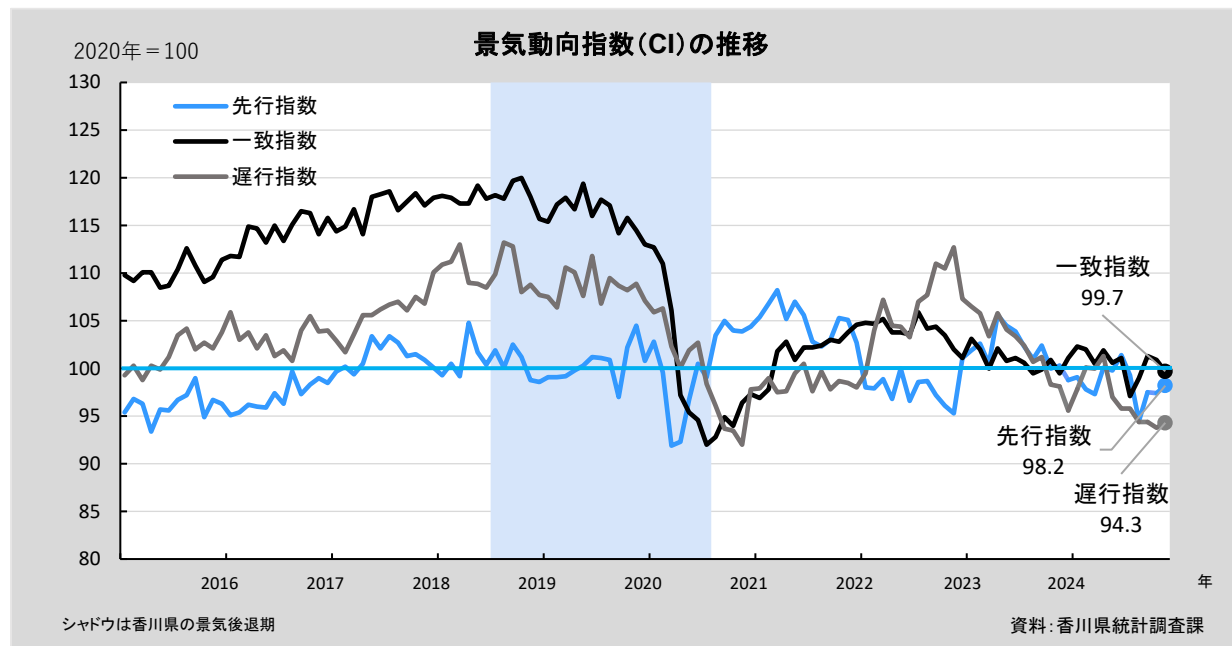


概況	緩やかに持ち直している。
個人消費	堅調に推移している。
住宅投資	低調に推移している。
公共投資	持ち直している。
生産活動	横ばい圏内の動きとなっている。
雇用情勢	緩やかに持ち直している。
貿易	輸出、輸入ともに減少している。
観光	持ち直しの動きが続いている。

景気動向指数(かがわ CI) 一致指数 2カ月連続下降



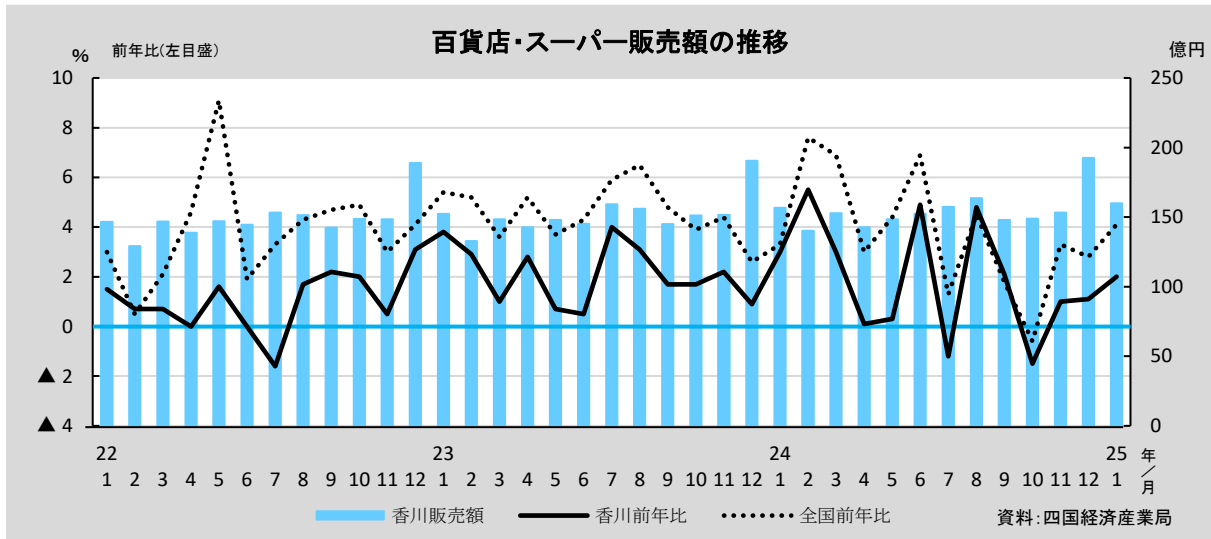
景気の現状をみると、12月のCI一致指数は99.7（前月比▲1.2ポイント）と2カ月連続で下降。CI先行指数は98.2（同+0.8ポイント）と2カ月ぶりに上昇。CI遅行指数は94.3（同+0.5ポイント）と7カ月ぶりに上昇。

景気の現状を示す一致系列の個別指標では、鉱工業生産指数、百貨店・スーパー既存店販売額等が下降に寄与し、前月から1.2ポイント下降となった。

採用景気指標	先行系列		一致系列		遅行系列	
	寄与度		寄与度		寄与度	
1 新規求人数	▲ 0.03	1 雇用保険受給者実人員	▲ 0.34	1 常用雇用指数	▲ 0.31	
2 新車新規登録・届出台数		2 有効求人倍率	▲ 0.14	2 有効求職者数	0.09	
3 鉱工業在庫率指数	▲ 0.67	3 所定外労働時間指数	0.29	3 消費者物価指数	0.98	
4 新設住宅着工戸数	0.56	4 鉱工業生産指数	▲ 0.49	4 家計消費支出	0.00	
5 金融機関貸出残高	1.01	5 鉱工業出荷指数	▲ 0.23	5 鉱工業在庫指数	▲ 0.34	
6 消費者態度指数	0.09	6 建築着工床面積	0.07	6 法人事業税調定額	0.48	
		7 百貨店・スーパー既存店販売額	▲ 0.37	7 第3次産業活動指数	▲ 0.26	

●百貨店・スーパー販売額

3カ月連続増加

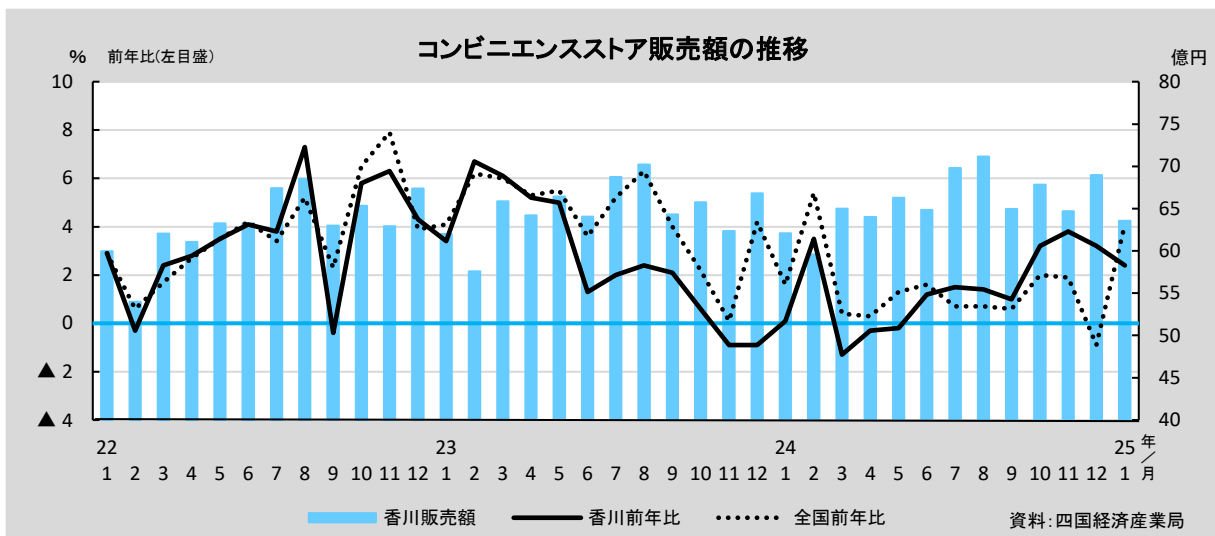


2025/1月	衣料品	身の回り品	飲食料品	家具	家庭用 電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(万円)	109,698	71,355	1,191,347	1,697	5,309	72,303	147,035	535	1,599,279
前年同月比(%)	▲ 9.0	▲ 6.8	5.5	▲ 31.3	▲ 7.1	5.2	▲ 10.5	▲ 10.5	2.0

1月の百貨店・スーパー全店（89店）の販売額は159.9億円で、前年同月比+2.0%と3カ月連続で増加した。「飲食料品」は生鮮野菜や米の価格上昇が売上を押し上げる傾向がみられ、同+5.5%と好調に推移した。一方、「その他商品」は化粧品などの動きが鈍く同▲10.5%と減少した。

●コンビニエンスストア販売額

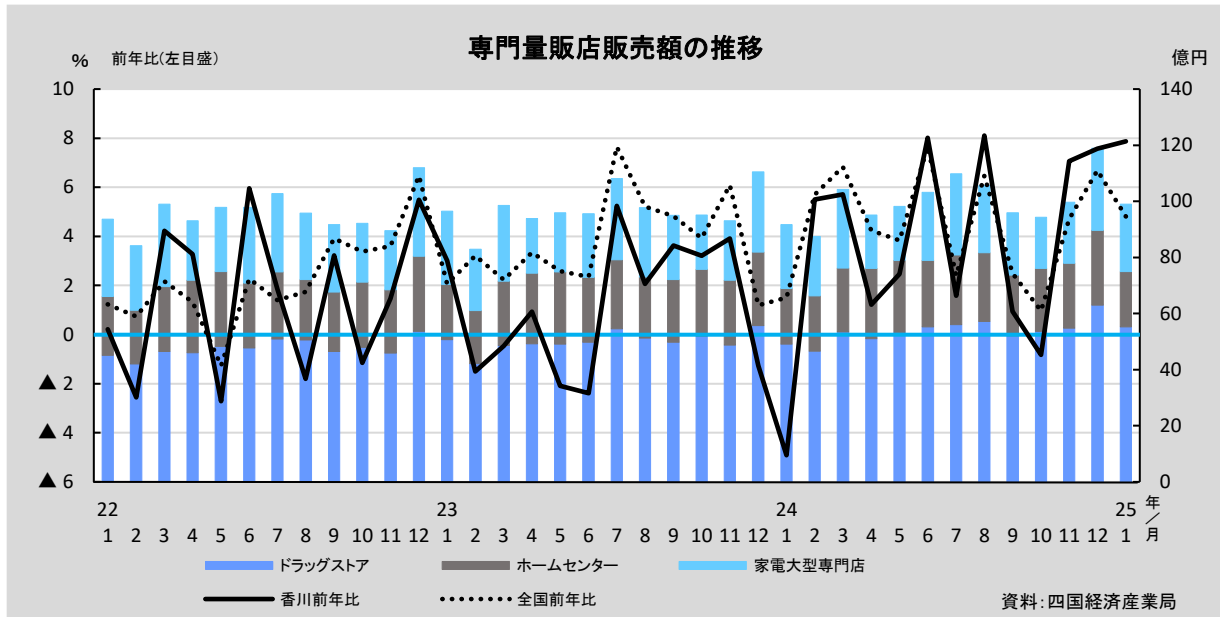
8カ月連続増加



1月のコンビニエンスストア全店（406店）の販売額は63.6億円で、前年同月比+2.4%となり、8カ月連続で増加した。

●専門量販店販売額

3 カ月連続増加

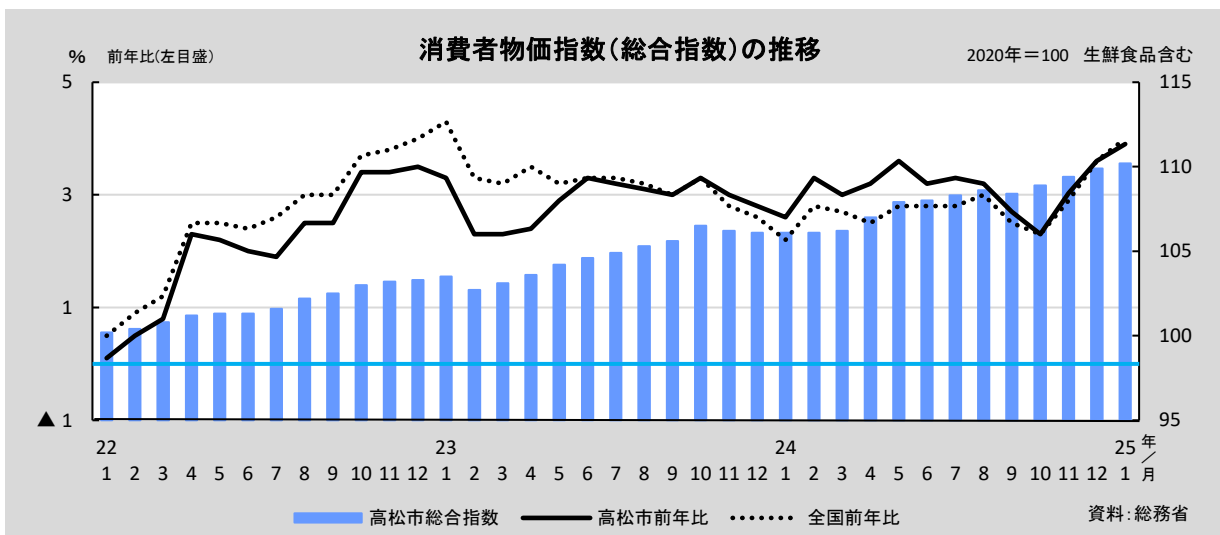


1月の専門量販店全店（229店）の販売額99.0億円で、前年同月比+7.9%と3カ月連続で増加した。

業態別にみると、**家電大型専門店**（27店）の販売額は、24.1億円で前年同月比+5.5%となった。**ドラッグストア**（155店）の販売額は、55.3億円で同+12.5%となった。**ホームセンター**（47店）の販売額は、19.7億円で同▲1.1%となった。

●消費者物価指数

3 カ月連続上昇幅増加

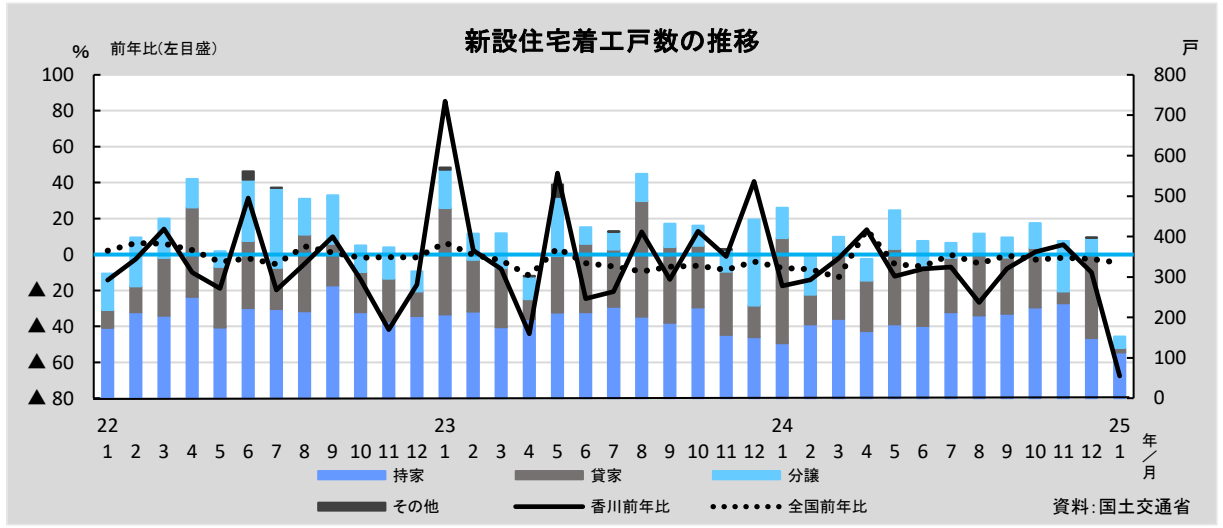


1月の高松市消費者物価指数（総合指数）は110.2となり、前年同月比+3.9%の上昇となった。10大費目指数の動きを前月比で見ると、「家具・家事用品」「食料」「交通・通信」の3費目が上昇し、「被服及び履物」「保健医療」「教育」「教養娯楽」「光熱・水道」「住居」の6費目が下落した。

住宅投資 低調に推移している

●新設住宅着工

2 カ月連続減少 ↓

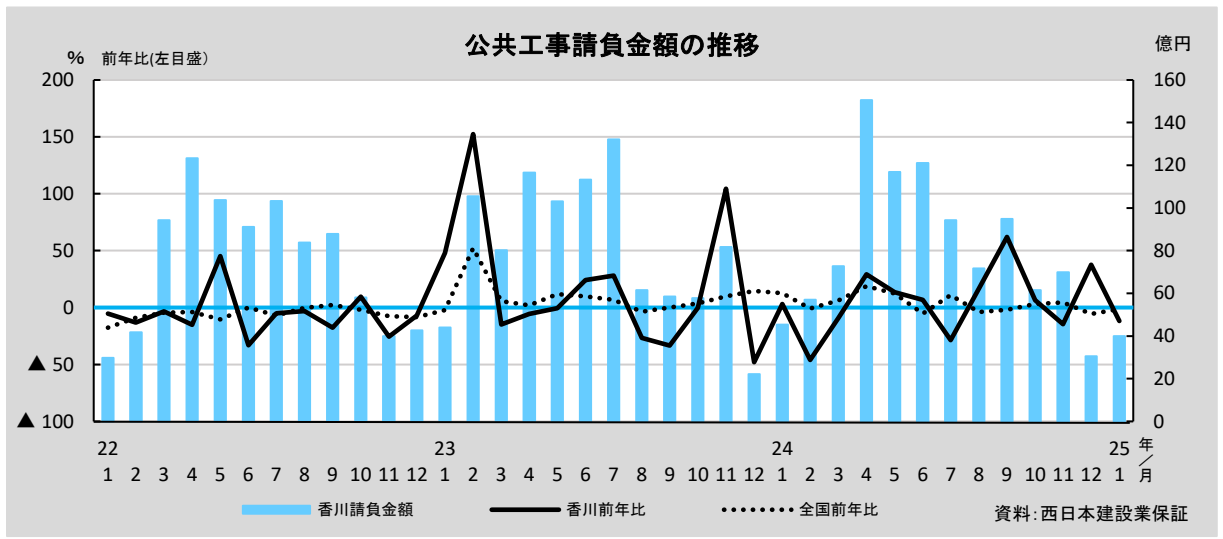


1月の新設住宅着工戸数は153戸で、前年同月比▲67.5%と2カ月連続で減少した。利用関係別にみると、**持家**で前年同月比▲16.9%、**貸家**で同▲95.8%、**分譲住宅**で同▲61.3%となった。

公共投資 持ち直している

●公共工事請負金額

2 カ月ぶり減少 ↓



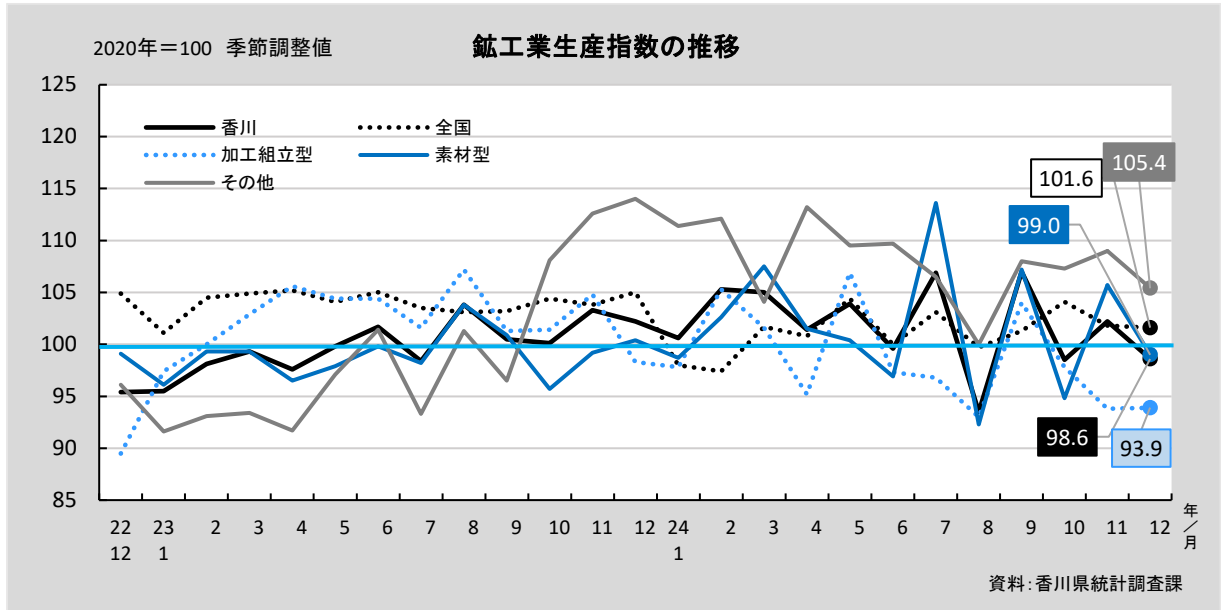
1月の公共工事請負金額は40.0億円で、前年同月比▲11.8%と2カ月ぶりに減少した。発注者別にみると、**国・独立行政法人等**で前年同月比+5140%、**県**で同▲20.5%、**市町**で同▲44.5%となった。
2024.4月～2025.1月の累計では前年同期比7.5%増加している。

生産活動

横ばい圏内の動きとなっている

● 鉱工業生産指数

2 カ月ぶり低下 ↓



12月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は98.6（前月102.2）となり、2カ月ぶりに低下した。

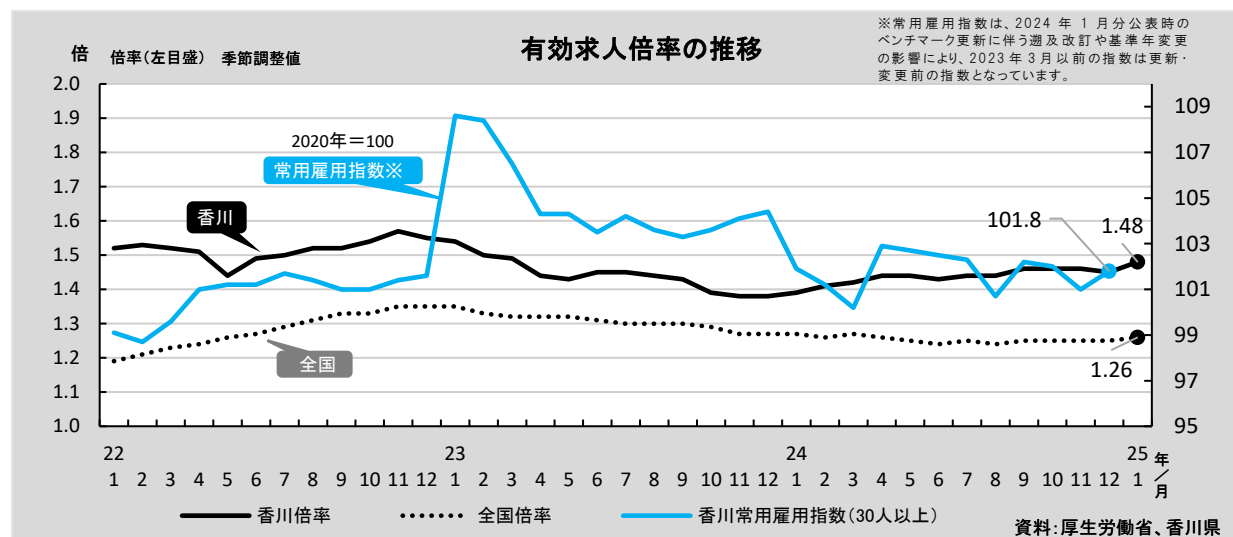
業種別では、素材型の化学・石油石炭製品工業（医薬品など）は前月比▲16.7%、その他業種の食料品工業（食用油など）は同▲6.5%と低下した。一方、加工組立型の電気機械工業（発光ダイオードなど）は同+8.0%と上昇した。

雇用情勢

緩やかに持ち直している

● 有効求人倍率

4 カ月ぶり増加 ↑



1月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.48倍（全国5位）で前月より0.03ポイント上昇した。

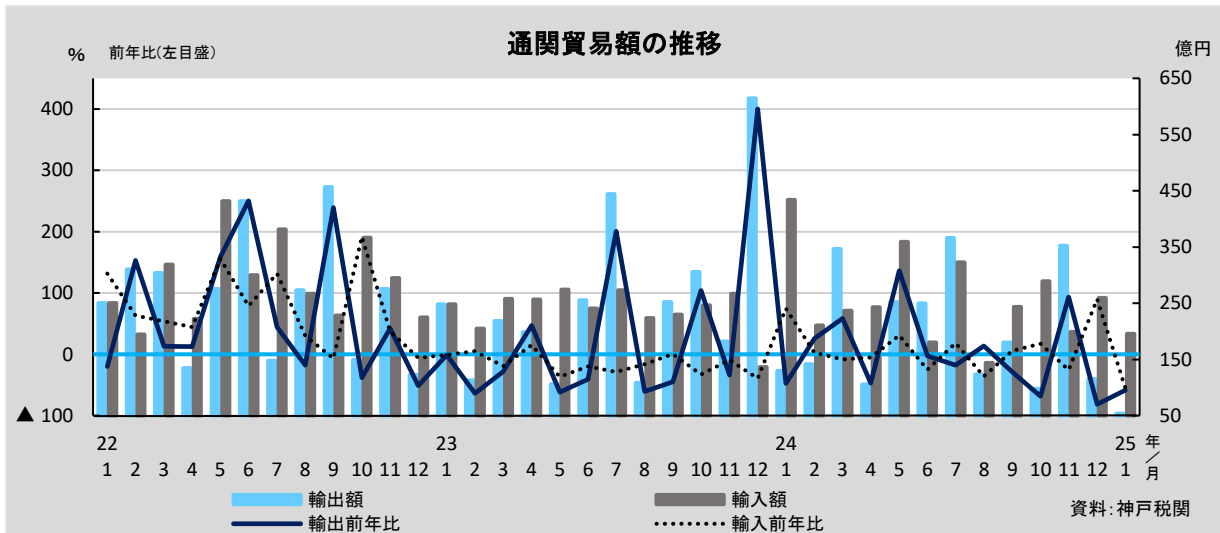
新規求人（原数値：前年同月比）は、医療・福祉、建設業、生活関連サービス業・娯楽業等で減少となり、全体で▲2.9%と4カ月ぶりに減少した。

12月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、101.8となり、前年同月比は▲2.5と12カ月連続で減少した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業	2.73
事務的職業	0.75
販売の職業	2.55
サービスの職業	3.57
生産工程の職業	2.58
輸送・機械運転の職業	2.56
建設・採掘の職業	5.87
運搬・清掃・包装等の職業	1.24

貿易

輸出、輸入ともに減少している



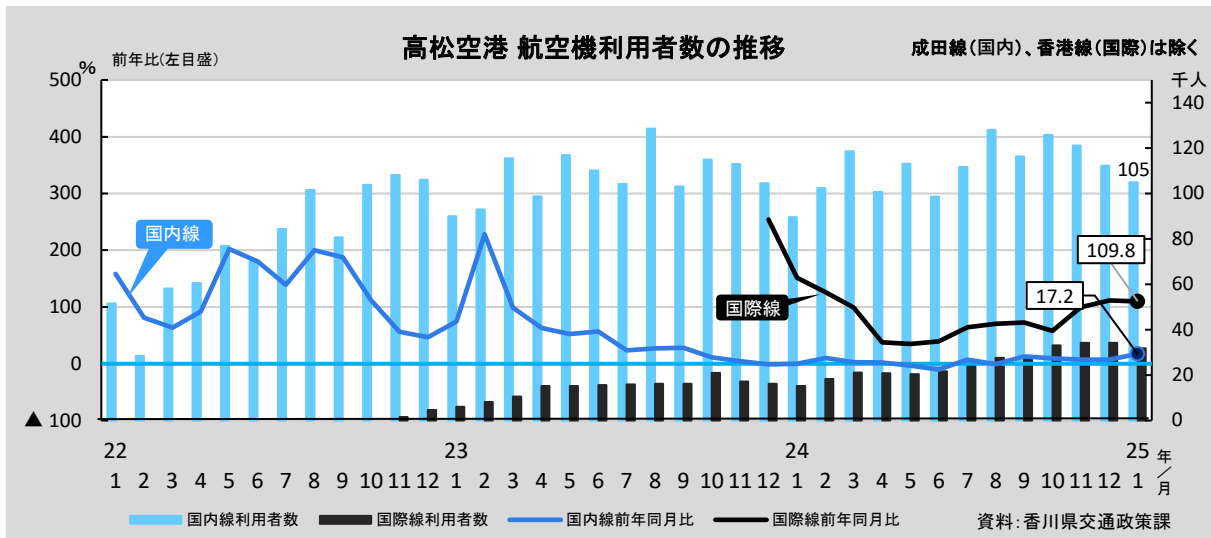
1月の輸出額は前年同月比▲58.6%の53.8億円、輸入額は同▲54.9%の195.8億円となり、差し引き142.0億円の入超となった。

輸出は、前年同月54億円だった貨物船輸出額がゼロとなり減少に寄与した。輸入は、石炭輸入額が前年同月比▲89.2%の27億円となり減少に寄与した。

交通

国内線は5カ月連続増加、国際線は15カ月連続増加

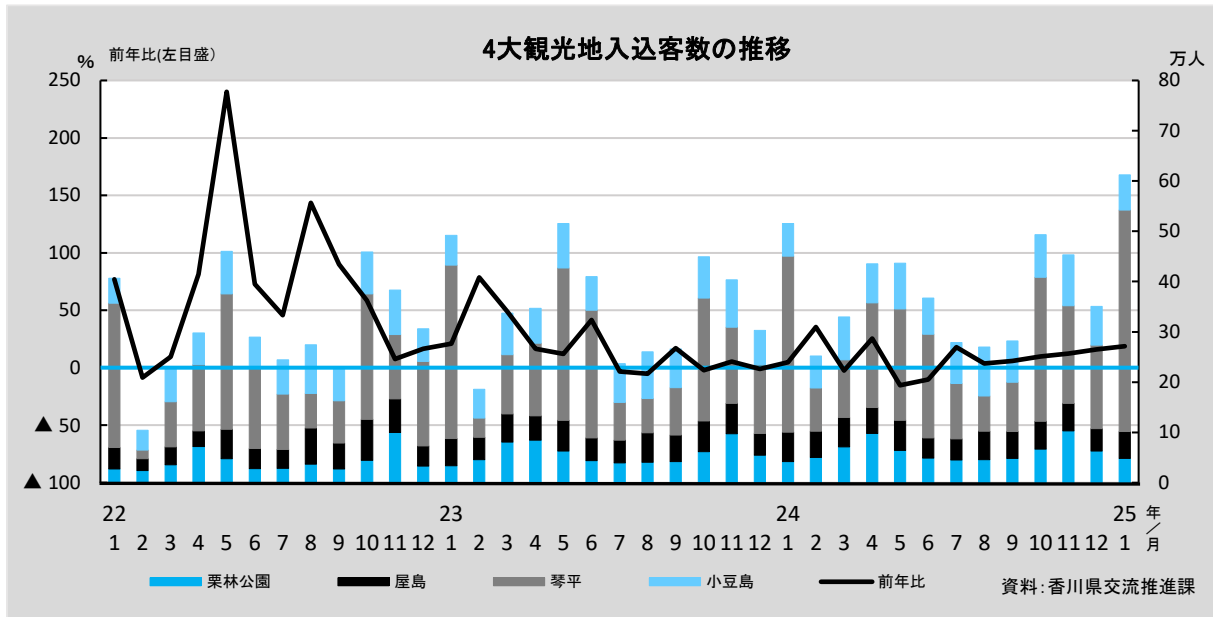
●高松空港旅客輸送実績



1月の航空機利用者数は、国内線(羽田・那覇線)が104,951人(前年同月比+17.2%)となり、5カ月連続で増加した。羽田線は96,373人(同+16.3%)、那覇線は8,578人(同+28.4%)となった。

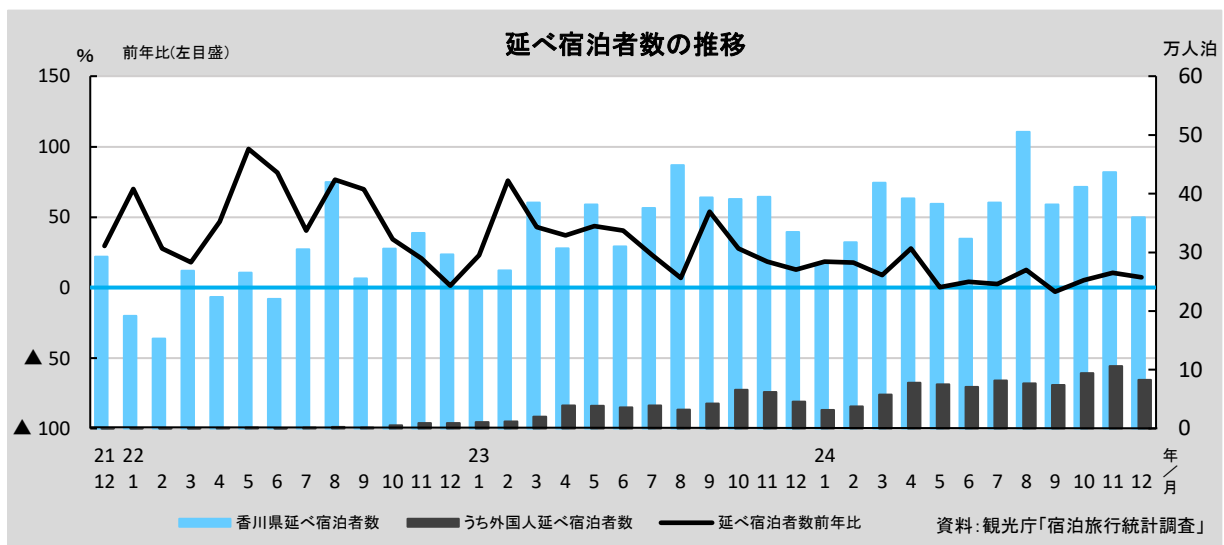
国際線は、ソウル線21,339人(同+108.2%)、上海線5,509人、台北線4,981人(同+1.1%)で合計31,829人(同+109.8%)と15カ月連続で増加した。

●主要観光地入込客数



1月の主要観光地の入込客数は、前年同月比+18.8%と7カ月連続で増加した。栗林公園は前年同月比+15.0%、琴平は同+25.7%、小豆島は同+8.5%と増加したが、屋島は同▲8.5%と減少した。2024年(1~12月)の累計では前年同期比+6.2%となった。

●延べ宿泊者数



12月の延べ宿泊者数は359,550人で、前年同月比+7.4%と3カ月連続で増加した。うち、外国人延べ宿泊者数83,030人となり、前年同月比+81.7%と29カ月連続で増加した。